イ　数量や図形についての基礎的な能力の維持や向上を図るため，適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。また，段階間の指導内容を円滑に接続させるため，適切な反復による学習を進めるようにすること。

ウ　２の内容の「Ａ数と計算（１段階はＢ）」，「Ｂ図形（１段階はＣ）」，「Ｃ測定（１段階はＤ）」及び「Ｄデータの活用（１段階はＡ「数量の基礎」）」の指導の間の関連を図ること。

(2)　２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

ア　思考力，判断力，表現力等を育成するため，各段階の内容の指導に当たっては，具体物，言葉，数，式，図，表，グラフなどを用いて考えたり，説明したり，互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにすること。

イ　「Ａ数と計算（１段階はＢ）」の指導に当たっては，具体物などの教具を適宜用いて，数と計算についての意味の理解を深めるよう留意すること。

ウ　１段階の内容に示す事項については，次の(ｱ)から(ｳ)までに留意するものとする。

(ｱ)　内容の「Ａ数量の基礎」のアの(ｱ)の㋐及び㋑，(ｲ)の㋐に示す事項については，内容の「Ｃ図形」のアの(ｱ)の㋐から㋕まで及び(ｲ)の㋐から㋒までの基礎的な事項として関連付けながら取り上げること。

(ｲ)　内容の「Ａ数量の基礎」のイについては，分割した絵カードや関連の深い絵カードを組み合わせるなど，初歩的な分析や総合について取り扱うものとする。

(ｳ)　内容の「Ｃ図形」のアの(ｱ)の㋐については，様々な情報のうちから，必要な情報のみを取り出し，他を捨象することを取り扱うものとする。また，㋑から㋕までの類別や分類・整理につながるよう配慮するものとする。

エ　２段階の内容に示す事項については，次の(ｱ)から(ｳ)までに留意するものとする。

(ｱ)　内容の「Ａ数と計算」の指導に当たっては，次の㋐及び㋑についての金銭の価値に親しむことを取り扱うものとする。

㋐　金種を用いる。

㋑　様々な種類の貨幣のもつ価値を知る。

(ｲ)　内容の「Ｂ図形」のアの(ｱ)の㋑については，相違点や類似点に着目して分類することを取り扱うものとする。

(ｳ)　内容の「Ｄデータの活用」のアの(ｱ)の㋐については，分類してまとめたもの同士の数量に着目できるよう配慮するものとする。

オ　３段階の内容に示す事項については，次の(ｱ)から(ｵ)までに留意するものとする。

(ｱ)　内容の「Ａ数と計算」の指導に当たっては，次の㋐についての金銭の価値に親しむことを取り扱うものとする。

㋐　金種の理解

a　金種を用いる。

b　様々な種類の貨幣のもつ価値を理解する。

c　おつりを扱うこと。

(ｲ)　内容の「Ｂ図形」の指導に当たっては，次の㋐の基礎的事項と関連付けながら取り上げること。

㋐　大きさとしての角の理解

a　身の回りにある直角を紙に写し取ったり，紙粘土でつくったりして「形としての角」を抽出する。

b　角度を変えるなどの操作を通して「大きさとしての角」を実感できるようにする。

(ｳ)　内容の「Ｃ測定」の指導に当たっては，次の㋐から㋒までの基礎的な事項と関連付けながら取り上げること。

㋐　量の保存性に対する理解

a　量を他の位置に移すことや分割していくつかに分けること，また，そのときに見かけの形が変わることなどを体験できるようにする。

b　見かけの形を元に戻したときに量の大きさが変わっていないということから，保存性について確かめるようにする。

㋑　量の性質の理解

a　量の概念を理解し，豊かにするために，「量の比較性」，「量の測定性」，「量の加法性」に関わる体験を重視する。

㋒　時計の理解